

2025年度 事業報告書

2025年4月1日から2026年3月31日

特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

1. 事業の成果

(1) 経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の受入・配給事業

2026年3月末時点で、登録寺院数2,371カ寺(前年+183カ寺)、登録団体数1,045団体(前年+109団体)に拡大。支援家庭数は20,206世帯(前年+3,636世帯)に達しました。物価高が続くなか、助けを求める声は一向に止む気配がありません。前年度に続き、「1年間に1回はおすそわけを届けたい」という想いを実現するため、過去複数回おすそわけを受け取った家庭には、長期休暇中の臨時おすそわけに限定して支援を届けることを決断、夏2,500世帯/冬2,500世帯、計5,000世帯へおすそわけをお届けしました。また、株式会社まち未来製作所と活動連携を開始し、地域ごとの支援体制づくりを進めるため、福島県郡山市を拠点に地元の担当者を定めて、広報・勧誘活動を展開しています。

(2) ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業

全国7カ所で「お寺の”ある”を社会の”ない”へ お寺ができる子ども支援とは？」を開催しました。職員や理事がそれぞれ現地を訪れ、活動の背景や現在の取り組み、支援者・要支援者の声を紹介し、子どもの貧困について地域で考える機会を設けました。活動が社会にもたらす価値や成果を可視化し検証するため、2024年度の取組をまとめたインパクトレポートを6月に公開。活動の意義を客観的に示す資料として、多方面で活用しています。

フリーマガジン『てばなす』第9号は、「てばなす」ことの意味や、子どもの貧困問題を自分ごととして捉えてもらうことを目的として、インタビュー記事の増加など、読み物としての魅力を高めるよう工夫しました。また、支援を受けた家庭から届いた声をまとめた『「声」2025年度版』を発行。ひとり親家庭の喜びや安堵、生活の困難など生の声を通じて、子どもの貧困への理解と支援への共感を広げることを目指しました。

(3) 学習支援や居場所づくり等子どもの発達・育成に関する事業

2022年度より奈良県田原本町で取り組んできた「子どもの居場所事業」は、2025年4月より、これまで本事業を担ってきた職員と地域の若者たちにより設立された「こども支援団体 ここいと」へと引き継がれ、地域主導による新たなステージへと移行しました。おてらおやつクラブとしては、これまで積み重ねてきた実践と信頼を活かしながら、地域に安心して関わってもらえるよう「後援」として活動を支えました。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
(1) 経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の受入・配給事業	全国の寺院を拠点に、経済的に困窮する家庭やその支援を行う団体等に寺院に供えられた食料品・日用品などを届ける。	随時	・事務所 ・全国寺院	・事務局6人 ・ボランティア630人 ・全国2,371寺院 ※寺院は不特定多数	支援家庭数 16,750世帯	36,433
(2) ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業	講演・勉強会・執筆などを行い、ひとり親家庭等の自立問題や子どもの貧困問題についての啓発を促す。	随時	・事務所 ・その他会場 ・オンライン	・事務局5人	不特定多数	19,833
(3) 学習支援や居場所づくり等子どもの発達・育成に関する事業	学習支援やイベント企画を通して、子どもの居場所づくりに取り組む。	随時	・事務所 ・その他会場	・事務局1人	不特定多数	2